

一 爾前經瓦礫^{がりやく}国の事

仰せに云はく、法華經の第三に云はく「如^{によじゅう}從^け飢^{こく}国^{らい}来、忽^{こつ}遇^ぐ大王膳」と。六の卷に云はく「我此土安穩、天人常充滿、我淨土^ふ不^き毀」と。此の兩品の文の意は權教は悉^{ことごと}く瓦礫の旅の国なり。あやまりて本国と思ひ、都と思ふ事は迷ひの故なり。一往四十二年住したる国なれば衆生皆本国と思へり。本国は此の法華經なり。信解品に云はく「遇向^{しんげ}本^く国^{こう}」と。三五の下種の所を指して本国とも淨土とも大王膳とも云ふなり。下種の心地即ち受持信解の国なり云云。